

教育センターだより



南砺市教育センター



「ふるさとを誇りに思い、未来を切り拓く なんとっ子」

南砺市教育センター 所長 杉下 悦子

3年前、井口小学校に勤務していた私は、当時2年生のAさんたち4人と一緒に、地域の「椿」名人さんのお宅を訪問しました。生活科の学習で、「もう一度、『椿』名人さんに会いたい」と希望した子供たちの2回目の訪問でした。「椿」名人さんのお宅に着くと、子供たちは、目を輝かせながら椿の蕾取り等の作業を体験したり「椿」名人さんのお話を聞き質問したりしました。

数日後の学級での話合いで、Aさんは、「台風でも雨でも晴れでも、毎日お世話をしているよ。だって、名人さんは、『椿が命』(だから)。」と話しました。さらに『『椿が命』って?』という担任の問いかけに対して、「椿が枯れたら、悲しい。椿が自分より大事ってこと。」と、普段は人前で話すことがあまり得意ではないAさんが、自分の言葉で熱く語っていました。Aさんは、たとえ台風の中でも育成ハウスへ行き、たくさんのお世話をするという名人さんの話が強く心に残ったようです。そして、2年生なりに「椿に対する情熱や生き方」に感動するとともに、自分たちに優しく接して下さった名人さんに親しみを感じていたようでした。

今年4月、南砺市で初の義務教育学校「南砺つばき学舎」の開校式に参加しました。その式の後に、笑顔で近況を語ってくれたAさんをはじめとする子供たちは、どの子もみんな自信にあふれていました。きっと、「人との関わり」から多くのことを学んできたのでしょう。3年前の姿と重ね合わせ、この3年間の確かな成長を実感することができ、とてもうれしくなりました。

南砺市の学校教育では、「ふるさとを誇りに思い、未来を切り拓く なんとっ子」の育成を目指す「ふるさと教育」が大きな柱となっています。地域を基盤とした9年間の計画的な小中一貫教育の中で、「ふるさと」から学び、友達や地域の方と関わる学習や活動を積み重ねることで、自分の住む地域に誇りを持ち、人を思いやることのできる心が育ち、それが、将来生きていく上で、大切な原動力となっていくのではないかと思います。

その一方で、今年度から1人1台端末等の活用が可能となり、各校で積極的に活用や研修が進められています。高橋純先生の講演にあったように「堪能になることよりも慣れること」をキーワードに、「タブレット端末は、使うことが目的ではなく、学習のねらいに迫るための日常的で有効な道具となるように」していかなくてはなりません。例えば、タブレット端末の活用を「ふるさと学習」の充実につなげることはできないでしょうか。前述のような生活科の学習の場合、見学の際にタブレット端末を持参し、子供たち一人一人が伝えたい場面をタブレット端末で画像にとって、それを基に自分の思いや考えを友達に伝えることができるかもしれません。

小中連携して各地域の特色を生かしながら、子供たちの力を育む教育活動と時代の変化やニーズに応じたものを合わせながら、市全体で「未来を切り拓くなんとっ子の育成」にあたることができるよう、教育センターでは、今年も研修事業をはじめ、その他の事業を推進していきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

令和3年度の南砺市教育センター所員です。
1年間よろしくお願いいたします。近くにお越しの際には、お気軽にお立ち寄りください。

- | | |
|-----------|--------|
| ◇ 所長 | 杉下悦子 |
| ◇ 指導主事 | 藤森一彰 |
| ◇ 助手 | 高田美由紀 |
| ◇ SSW兼特支コ | 清玄寺真佐子 |
| ◇ S S W | 吉田美司子 |
| ◇ 特支コ | 酒井久美子 |



※ SSW：スクールソーシャルワーカー
特支コ：特別支援教育コーディネーター

市教育センター研修会報告 南砺市教育講演会

- 日 時 令和3年4月2日（金） 14：00～16：30
- 会 場 井波総合文化センター メモリアホール
- 講 師 東京学芸大学 准教授 高橋 純 先生
- 参加者 約290名（市内小・中・義務教育学校教職員、その他）
- 内 容 主体的・対話的で深い学びとICTの関わり



◆ 「堪能になる」ことより「慣れる」こと

- ・タブレット端末の活用の取りかかりは、「試しに使ってみる」くらいの気楽な気持ちで。
- ・使ってみて、よかったら続けてみればいいし、だめだと思ったらやめればいい。
- ・授業の場面だけでなく、校務においてもタブレット端末を活用し、教員がその便利さを感じる事が大切。

◆ クラウド活用の感覚をつかむ

- ・従来のICT活用の場面とは異なる、クラウドを活用した活用方法を考える。
- ・文書の同時編集、共同編集等、「クラウドらしい」活用の仕方を試してみる。

◆ タブレット端末を活用した授業展開

- ・タブレット端末の活用が目的とならないように。授業のどの場面でもどのように活用できるのか、子供たちに身に付けさせたい資質・能力と関連付けて授業を展開していくことが大切である。

<参加者の感想より>

- ・「情報活用能力」と聞けば、多くの情報を扱うことを想像しがちだが、実は情報量をコントロール（むしろ絞る）ことが、活動の質を高めることにつながると確認できた。キーワードとして、「堪能より慣れ」を覚えておきたい。
- ・ICTを使うことが目的にならないように、授業の中でどのように活用することが学びにつながるか、効果的かを考え利用することが大切だと思った。ただ使っていると学習の観点、ねらいから外れてしまうこともある。「内容をシンプルにする」、「先生の言葉が、一番影響力がある」という言葉が印象に残った。
- ・職員会議や終礼の資料等、teamsを使って便利にできるのではないかと思った。ちょっと前向きにタブレットを使っていこうという気持ちをもつことができた。
- ・今年度から何を指すのか、何に重点を置いてどう取り組むかについて、見通しをもつことができた。知識の理解の質を高め資質・能力を育む主体的・対話的で深い学びとは何か、今までよりもはっきりとしたイメージをもてるようになった。

今年度の事業について



(1) 調査研究事業

事業名	委員長	委員	回数	期 日	内 容
社会科資料	天野 泰嘉 (城端中 教頭)	4名	2回	6～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校社会科資料「身近な地域の学習－歴史編－」改訂 ・中学校「南砺市地図」改訂
理科資料	高川 芳昭 (井波小 教頭)	4名	3回	6～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校6学年理科資料「大地のつくり」改訂
体力づくり	石田 雅人 (平中 教頭)	8名	1回	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの調査協力、体力づくり対策推進について、今後3年間の見通しをもつ ※体力調査報告書はセンターで行う
(新規) ICT推進	山本 佳和 (吉江中 教頭)	15名	4回	6～2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した実践の紹介 ・ICT活用の成果と課題

(2) 研修事業 ※ 詳細は各研修会の要項等でお知らせいたします。

研修会名	月日	会場	講師
学力向上研修会	5月31日(月)	南砺市立吉江中学校	南砺市教育委員会 教育長 松本 謙一 先生
学校図書館研修会	6月8日(火)	南砺市立中央図書館	南砺市立中央図書館 副主幹 松井 環 先生
スタディ・メイト等研修会	6月22日(火)	南砺市地域包括ケア センター	南砺市教育委員会 スクールアドバイザー 野原 浩昭 先生
ふるさと学習研修会	7月26日(月)	井口地域	井口地域ガイドボランティア 藤田 節子 先生
【準協業研修】 コミュニケーション教育研修会	8月2日(月)	南砺市地域包括ケア センター	芸術文化観光専門職大学 学長 平田 オリザ 先生
【協業研修】 道徳教育研修会	8月25日(水)	南砺市地域包括ケア センター	畿央大学 教授 島 恒生 先生
授業力向上研修会 (ステップアップ研修)	6～2月	市内小・中・義務教育 学校	南砺市教育委員会 教育長 松本 謙一 先生
I C T活用研修会	10～11月	市内小・中学校各1校	富山大学 准教授 長谷川 春生 先生

※ 砺波市・小矢部市主催の以下の研修会にも参加できます。(詳細は後日、お知らせいたします。)

研修会名	月日	会場	講師
【小矢部市 協業研修】 資質能力向上研修会	7月29日(木)	小矢部市総合保健福祉 センター	富山大学 准教授 石津 憲一郎 先生
【小矢部市 準協業研修】 学力向上研修会 (I C T)	8月3日(火)	小矢部市総合保健福祉 センター	信州大学 助教 佐藤 和紀 先生
【砺波市 協業研修】 特別支援教育研修会	8月6日(金)	庄川生涯学習センター	県立高岡支援学校 元校長 二上 和代 先生
【砺波市 協業研修】 実技指導法研修会 (歌唱)	8月23日(月)	砺波市立出町小学校	富山県授業力向上アドバイザー 宮崎 新悟 先生

ご活用ください

教育センターが行うサービス(一部)

拡大教材等の作成

教科書や副読本、資料等の拡大印刷 (A1・A2判)、垂れ幕・横断幕作成等ができます。(パワーポイントで作成したデータを、共有サーバにご準備ください。)

【10 教セ>90 庶務>拡大印刷依頼】

教科書・図書資料の貸し出し

教育センターには教科書が揃っています。現在採用されているものはもちろん、それ以外の教科書も準備しています。また、特別支援教育や特別活動に関する図書、ソーシャルスキルトレーニング絵カード等の貸出も行っています。どうぞご利用ください。

スクールバスの活用

校外学習の際に、スクールバスの使用が可能です。ただし、各学校の下校時間に支障がないよう 14:30 には帰校できるよう計画してください。また、出発の **2週間前まで**には利用申請書の提出をお願いします。

教育センター

視聴覚教材・備品等の貸し出し

プロジェクターの貸し出しを行っています。利用を希望される場合は、早めに電話で問合せをいただき、事前予約をお願いします。

校外学習の際にはAEDもご活用ください。

